

---

# 御苦労さん

坂田火魯志

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

御苦労さん

### 【Nコード】

N5802S

### 【作者名】

坂田火魯志

### 【あらすじ】

数多くの名選手を育てた西本幸雄。彼が二人の大投手に言った言葉は。SmileJapan企画作品です。球史に残る名将西本さんのお話です。

## 第一章

御苦労さん

昭和四十六年日本シリーズ。阪急ブレーブスは巨人と戦っていた。この時巨人は圧倒的な強さを誇っていた。無法と言うべきやり方で集めた戦力によってだ。まさに無敵だった。

その巨人に阪急は果敢に立ち向かった。これまで三度シリーズで敗れたがそれでもこの年も巨人に立ち向かった。その阪急のエースは若きアンダースロー山田久志である。

シリーズ第三戦のことである。その山田が好投していた。

巨人の誇る強打者達を次から次に打って取りだ。試合の勢いを作っていた。シリーズ全体でもこの試合に勝てば主導権を握れる、それだけ重要な試合になっていた。

山田はその試合において好投を続けたのだ。そして九回を迎えた。この回を抑えればだ。試合に勝ちシリーズの流れも阪急に引き寄せることができる、山田にかけられた期待は大きい。阪急の監督である西本もだ。ベンチから黙って腕を組み彼の投球を見守っていた。その九回だ。ところがここぞだ。

山田はランナー二人を背負ってしまった。そうして迎えるのは巨人の四番王貞治。言わずと知れた史上最高の野球人である。バッターとしては最早言うまでもない。まさにその最大の強敵を迎えてしまったのだ。その王にだった。

山田は打たれてしまった。打球はライトスタンドに一直線に入ってしまった。まさに白い弾丸となってだ。山田も阪急も打ち砕いてしまった。

そのホームランはただの逆転サヨナラスリーランではなかった。シリーズの流れを完全に掴み、そして阪急を終わらせてしまったホームランだった。打たれた山田はマウンドに蹲り立ち上がれなかった。

しかしその山田にだ。西本は一人迎えに言った。その西本に山田は言った。

「監督、すいません……」

打たれたことをだ。涙を流しながら詫びた。だが普段は鉄拳制裁で知られる厳しい西本がだ。

優しい微笑みを浮かべてだ。こう告げたのだ。

「御苦労さん」

この一言で山田を連れて帰ったのだ。シリーズには負けた。だが山田久志という大投手はここからはじまったと言ってもいい。アンダースローの投手で歴代最高の勝利数を挙げた彼の話は。

## 第二章

野球の神とは実に気まぐれなものだ。その阪急を率いた西本が同じ関西の鉄道会社を親会社に持つ球団である近鉄バファローズの監督に就任してだ。今度は近鉄を率いて戦ったのだ。無論阪急とも戦った。その戦いは長く続き昭和五十三年の後期リーグにおいてはだ。近鉄はエース鈴木啓示の活躍により後期優勝まであと一歩のところまで来た。最後の試合は西本がかつて率いていた阪急との試合だ。この試合に勝てばプレーオフに行きそれにも勝てば遂に日本シリーズだった。

当然その重要な試合にはエースが登板する。そう、近鉄は鈴木を出したきたのだ。尚阪急は山田だ。かつて王にホームランを打たれた彼は押しも押されぬ阪急の看板エースになっていたのだ。

だが鈴木はだ。この試合今一つ調子がよくなかった。それで打たれていった。

遂に駄目押しのホームランまで打たれてしまった。勝敗は決してしまった。

それを見てだ。西本はだ。

ゆっくりとベンチを出てだ。鈴木にこう告げたのだった。

「スズ、御苦労さん……」

その目に熱いものを宿らせて告げたのである。

試合には負けた。だが近鉄をここまで引つ張ってくれたのは他でもない鈴木だからだ。だからその鈴木にだ。こう告げたのである。

鈴木は西本の言葉を受け無言でマウンドを降りた。そのうえで一人球場のロッカールームで泣いた。

「わしは何でいつも大事な時に打たれるんや……」

しかし西本はその鈴木を責めなかった。礼を述べたのだ。それが西本の鈴木への心だった。

その心に応えてだ。鈴木はそこから再び奮起してだ。三百勝を達

成した。鈴木を三百勝にまで至らせたのは西本に他ならない。

二人の大投手に告げた言葉、それはたった一言だ。だがその一言が二人の大投手を生み出すことになった。西本幸雄という野球人はそれだけのことをやったのだ。八度リーグ優勝を果たし多くの選手とチームを育てた不世出の闘将である彼の数多い実績の一つである。もっともそれを決して誇ることがないのが西本だ。だがそれだけの野球人が存在していることはだ。我が国の球界にとってこの上なく素晴らしいことであろう。

御苦労さん 完

2011・4・18

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5802s/>

---

御苦労さん

2011年10月3日00時08分発行